



建築環境デザインコース学生の建築愛好会「しかラボ」 鹿島市山浦で古民家改修に着工

【概要】

ダム建設に伴い集団移転した鹿島市山浦の集落跡で空き家となった古民家の改修に、建築環境デザインコースの学部生と大学院生らが取り組み始めました。改修を進めているのは、本学学生が代表を務める建築愛好会「しかラボ」（2024 年 8 月に設立）です。古民家を地域の人が集まる拠点として再生させることを目指し、2026 年 3 月の完成を目指して作業を進めています。

【本文】

ダム建設に伴い集団移転した鹿島市山浦の集落跡で空き家となった古民家の改修に、理工学部および理工学研究科の建築環境デザインコースの学生らが取り組み始めました。改修を進めているのは、博士前期課程 2 年の保澤 伸光さんと甲斐 健斗さんが代表を務める建築愛好会「しかラボ」（2024 年 8 月に設立）で、現在は 16 人の学生が所属しています。古民家を地域の人が集まる拠点にしようと、2026 年 3 月の完成を目指して作業を進めています。

保澤さんと甲斐さんらは、都市工学部門の三島 伸雄 教授の指導の下で、2023 年頃から鹿島市肥前浜宿の建物改修に関する研究に携わってきました。その活動を通じて、ダム建設で沈んだ地域に住んでいた元住人の亀井 初男さん（76）と出会いました。亀井さんが主催するイベントに参加した際、地域のにぎわいづくりに尽力する亀井さんの姿勢に感銘を受け、「自分たちも何か手伝えないか」と考えたことが、本企画のきっかけとなりました。

改修を進めている古民家は、鹿島市山浦の中木庭ダム近くの山あいには位置します。中木庭ダムは 1978 年に着工し、2006 年に完成した県営ダムで、2017 年まで周辺整備が行われました。この過程で約 40 戸が移転の対象となりましたが、この古民家は水没予定地にあった建物を「何かに使えないか」と移転して残された唯一の建物です。母屋は平屋建てで約 27 平方メートル、離れは約 13 平方メートルの規模です。

学生たちは、にぎわいを取り戻すために、地元の工務店や移住支援を行う NPO 法人「はまみらい」などの協力を得ながら、壊れた窓ガラスの撤去や建物の土台修繕などの作業を進めています。改修費をまかなうために 2025 年 8 月まで実施したクラウドファンディング（CF）では、140 万円の支援が寄せられました。

この取り組みは、単なる学生の思いつきではなく、地域の方々の想いや願いが込められたプロジェクトです。鹿島市の様々なプロジェクトに長年関わってきた住民や移住者たちの情熱に、学生たちが感銘を受け、自らの若い力をぶつけてみようと思ち上がったものです。そうした多くの想い、願い、期待が、この活動には込められています。これらの力の結集を最後まで見たい、そういう方々が賛同し、学生たちとの新たな協働のかたちとしてまちづくりが進められています。

なお、本活動は、2025 年 10 月 10 日付の読売新聞朝刊でも紹介されました。



集合写真



作業風景



作業写真



作業写真



現地での写真